

テーマ 「感染症対策を踏まえた働き方改革」

視点１ 行政との連携や働きかけ

- ・ 学校サポーターを学校が探すのではなく公募にしてほしい。
- ・ ＩＣＴ機器やカメラ・ヘッドフォンの購入予算がほしい。
- ・ オンライン職員会議を行う上での Wi-Fi 等の環境整備が必要である。
- ・ 働き方改革においては、地域差はあるが市民への啓発が進んでいるかは疑問である。  
冊子等により啓発活動が進められることを望む。
- ・ 調査・報告等については、極力減らしていただきたい。

視点２ 自校での取組

- ・ ２年間のコロナ禍で短縮できる行事がわかった（運動会半日実施等）。
- ・ 学校評価を教頭がＩＣＴで実施した。
- ・ 県費事務職員が感染症関係で長期間休んだときに、近隣の小学校の加配事務職員に助けをいただき効果的であった。
- ・ 部活動の複数顧問制により、曜日ごとに指導担当を決め、他の教職員は執務にあたるようにしている。
- ・ テストの採点処理等には、副顧問や担外等が協力して部活動に従事している。
- ・ 朝練の負担に関しては、１か月前からの実施取り決めにより効果が見られている。
- ・ 中体連の事務局や専門委員長等の役職に就いている教員は、体育主任が難しいなど自校の教育活動に制限がある。
- ・ 若手教員の増加に伴い、保護者対応に苦慮している。特に、初期対応が重要であるため、学年主任とのペア、教頭とのペアで対応する機会を設け、一人で抱え込まない対策を進めている。さらに、人材育成や時短にもつながるのではないかな。
- ・ 巡視等を工夫し、できるだけ負担をなくすような取組が必要である。
- ・ ＰＴＡ活動、おやじの会等の協力を得ながら巡視活動を進めると、学校の負担も改善できるのではないかな。
- ・ ペーパーレスによる教務主任の負担減につながっている（必要に応じて各自印刷）。
- ・ 印刷機の性能により、冊子ごと印刷できるため負担減につながっている。
- ・ 教務会、企画会での話し合いを綿密に行い、職員会議の時短へつながっている。

視点３ 次年度に取り組みたいテーマ

- ・ 今年やれなかったことを重点的に取り組む。
- ・ 教頭の職務のＩＣＴ化
- ・ 引き続き、働き方改革の強力な推進

以 上